

## 前途洋々

令和6年度 朝礼 (3/4) 校長の話

おはようございます。

ついに3月に入り、今年度もあと1ヶ月もなく終わろうとしています。3月から4月へと、年をまたぐこの時期は、いつもと違う気分にならないでしょうか。あつという間に過ぎてしまった1年間、まだ何も達成できていないような気分、何かをやり残しているような焦りにも似た気分がします。まるで、こぼれ落ちる砂時計の砂が、残りわずかになって、ガラス瓶の管をいつもより速いスピードで滑り落ちていくのを、ただ黙って見ているような気分です。

しかし、一方で、この次にひかえている新しいステップへのわくわくした気分も同時に感じているのではないのでしょうか。皆さんはまだ人生を始めたばかりの若者です。これから先、一人一人がそれぞれ違った道を歩むことでしょう。何十年も、この先ずっと、皆さんは自分だけの道を一步一步進んでいきます。それは果てしなく続く希望の道とっていいかもしれません。

今日、私からはそんな皆さんにこの「前途洋々」の言葉を送りたいと思います。目の前に広がる世界は、大海原のように洋々として広く、太陽の光を受けてキラキラと輝いています。ここにいる全員の未来がそうです。春の訪れとともに新たなステップを踏む皆さんには、目の前にはるかな希望があふれていると思ってください。

3年生は、新しい進路を手に入れた人が大勢いますね。青春の第2ステージをわくわくした気持ちで迎え入れましょう。1年生は4月に後輩が入ってきます。中学校生活1年生で培ったものを、後輩たちの前で胸を張って示してください。2年生はもうすぐ最高学年となります。3年生は学校の顔です。八中を背負う覚悟で伝統を守って行ってください。

前途洋々、未来へ向かってたくましく進む八中生であることを期待しています。

さて、ここで、ある生徒を表彰したいと思います。

先週、グリーンホールで開催された「調布市教育委員会表彰」で1番に表彰されました。3年A組野口由希葉さんです。この表彰式は、大部分がスポーツや文化活動の分野で全国や関東レベルの功績を残した児童生徒が受賞します。しかし、野口さんは唯一、地域貢献で素晴らしい実績を残したということで、教育長を始め調布市の教育委員の皆様から祝福を受けました。

さらに、全ての生徒を代表して言葉を述べてくれました。その言葉にはこうありました。「自分は決して他の人のように全国で優勝したり、高い成績を残したりした者ではありません、ただ子ども食堂で、小さな子どもたちが喜ぶ姿を見るために、3年間お手伝いを続けてきました。」野口さんは謙虚にそう言いましたが、一つのボランティアを継続することは並大抵ではありません。3年間、毎月毎月、喜ぶ人たちのために、ひたむきに続けてきた野口さんの行いには非常に尊いものを感じます。八中生みんなの前で、改めて、その功績を称えます。野口さん、壇上にお上がりください。

(表彰)

ボランティア活動は今年、延べ180名の生徒が参加しました。まだやったことがないという人もいます。ぜひ、地域のために今後も貢献してください。以上です。